

学位論文審査基準

観点	修士論文の審査基準	博士論文の審査基準
研究テーマの妥当性	明確で適切な問題意識の下に、学術的又は社会的意義が認められる研究テーマが設定されていること。	申請された学位に妥当であると同時に、明確で適切な問題意識の下に、学術的又は社会的意義が認められる研究テーマが設定されていること。
研究方法及び調査方法の妥当性	背景となる基礎知識を習得した上で、先行研究を十分に理解、検討し、研究テーマとの関連及び相違を明確に提示しつつ研究が進められていること。	先行研究を十分に理解、検討し、研究テーマとの関連及び相違を明確に提示しつつ研究が進められていること。
	研究テーマと当該研究領域に求められる研究方法を採用し、情報や資料の収集、調査、実験、結果の処理や解析が適切かつ十分に実施されていること。	研究テーマと当該研究領域に求められる研究方法により、情報や資料の収集、調査、実験等を十分に実施し、結果の処理や解析が適切なものであること。
	学内で定める研究倫理に関する規程、ヒトを対象とする研究倫理に関する規程、動物実験に関する規程、遺伝子組換え実験に関する規程を遵守した適切な研究活動が行われていること。	学内で定める研究倫理に関する規程、ヒトを対象とする研究倫理に関する規程、動物実験に関する規程、遺伝子組換え実験に関する規程を遵守した適切な研究活動が行われていること。
論述・論旨の妥当性	修士論文の構成、論述が明確かつ適切で、結論に至る論理展開に一貫性が認められること。	博士論文の構成、論述が明確かつ適切で、結論に至る論理展開に一貫性が認められること。
論文作成能力	修士論文の体裁、専門用語の使用、文章表現、図表の作成法が的確で、かつ、情報や文献の引用が適切であること。	博士論文の体裁、専門用語の使用、文章表現、図表の作成法が的確で、かつ、情報や文献の引用が適切であり、高度な研究者に相応しい論文作成能力があると認められること。
独創性	研究内容に独創性が認められること。	研究テーマ、研究手法、導き出された結論等に独自の価値が認められ、当該研究領域及び社会に貢献する可能性がある優れた成果を提供していること。
その他	なし。	国際的なレベルでの高度な知識と技術を有し、協調性を持ちながらも独立した研究者及び専門家としての豊かな学識が認められると同時に、研究者としての倫理を理解し社会への責任を果たすことが期待されること。